

令和 4 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立難波中学校

令和 5 年 3 月

学校運営の方向性

- 「子どもたちが楽しみ通うことのできる、居場所としての学校」を創造する。

教育目標:「自律・協力・創造」

- 「自身の行動に責任を持ち、自分で考え、正しく判断し、積極的に未来を切り拓く生徒」を育成する。
- 「互いの人権を守り大切に、周囲と協力し、人を思いやる優しい心を持つ生徒」を育成する。
- 「新しい発想や考え方をもち、何事にも一生懸命に取り組むことができる生徒」を育成する。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度の学校運営全体を通じての成果としては、次にあげるようなものがあつた。

- いじめの・虐待等についての研修の実施により、教職員の理解、迅速な対応へとつながつた。
- 一人一台端末の効果的な活用に向けた取組について、教員が試行錯誤し、一定の操作スキルを獲得することができた。
- LGBTQ の課題に教職員の力を結集し、制服のモデルチェンジなど、課題解決に向けた第一歩を踏み出すことができた。
- 区内の子どもたちの連携がオンラインなど限定的なものになってしまったことは仕方ないが、つながりを大切にするために各校の取組を共有することができた。

しかしながら、目標を達成できなかった項目に見られた課題については、次にあげるようなものがあつた。

- 不登校生徒等に対する適切な支援について、「好ましい変化が見られた」「登校できるようになった」割合が全体の14%であつた。
- 読解力の向上に係る取組については、期間が短かつたため、研修から授業実践、効果検証までに至らなかつた。また、継続して、自己肯定感が低く、自信がない生徒が多いと感じられる。
- サポーター・元気アップ・各主担と連携した学習会について、夏季休業中の学習会には多数の生徒が参加したが、感染防止対策による定期テストの実施回数の減少などがあつた

よって、今年度は、昨年度の成果を伸ばし課題を改善するために、次のようなことに取り組んでいく。

- 不登校生徒等に対する適切な支援について、重大事案への危機感を常に持ち、チェック機能を確実に機能させる。
- 読解力の向上に係る取組について、教科を越え、教育活動のあらゆる機会を通じ、読解力向上を意識した教員研修(外部講師による研修を含む)を実施し、授業実践を継続する。また、全学年でリーディングスキルテストを実施し、教育センターとも連携して教員の指導力向上を図る。また、人権教育、キャリア教育等を各教科横断的に、自他を尊重する心、自己の将来との繋がりを見通し、自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけさせるための教育課程の充実を図る。
- ICT 機器の効果的な活用について、オンライン・オンデマンドと従来の学習形式のハイブリッドで実施する。サポーター・元気アップ・各主担と連携した学習会について、学校全体をあげての取組とし、生徒の自主学習環境を整える。また、生徒が家庭学習に取り組めるよう、デジタルドリルの活用を推進する。

中期目標

安全・安心な教育の推進

- 全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 82%以上にする。
 - 令和 3 年度 75.2%、令和 4 年度 80.0%
- 全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 95%以上にする。
 - 令和 3 年度 94.2%、令和 4 年度 92.8%
- 全国学力・学習状況調査における「自分には、良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 77%以上にする。
 - 令和 3 年度 72.5%、令和 4 年度 81.9% **現時点達成**

未来を切り拓く学力・体力の向上

- 全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を、令和 7 年度末に国語・数学とも 1.00 以上にする。
 - 令和 3 年度 国語 0.94、数学 0.96、令和 4 年度 国語 0.96、数学 1.05
- 本市調査(大阪市英語力調査)における CEFR A1 レベル(英検 3 級)相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を、令和 7 年度末に 56%以上にする。
 - 令和 3 年度 52.6%、令和 4 年度 48.2%
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、令和 7 年度末に男女とも 1.01 以上にする。
 - 令和 3 年度 男子 0.99、女子 0.99、令和 4 年度 男子 1.11、女子 0.98

学びを支える教育環境の充実

- 学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除き、授業日において学習者用端末を毎日使用する。
 - 令和 4 年度 100% **現時点達成**
- 「学校園における働き方改革推進プラン」における、教員の勤務時間の上限に関する基準 1・2 を満たす教職員の割合について、令和 7 年度末に大阪市平均以下にする。
 - 令和 4 年度 基準 1…38.71%、基準 2…54.84%
- 全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)」に対して、読書時間が 30 分未満の生徒の割合を、令和 7 年度末に 65%未満にする。
 - 令和 3 年度 76.9%、令和 4 年度 67.2%
- 全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 50%以上にする。
 - 令和 3 年度 27.0%、令和 4 年度 29.1%

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

安全・安心な教育の推進

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定

的な「思う」と回答する生徒の割合を95%以上にする。

➤ 7月: 86.4%、12月 78.0%

- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

➤ 令和3年度 12.56%、令和4年度 11.3% 達成

- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

➤ 令和3年度 2.41%、令和4年度 13.6% 達成

未来を切り拓く学力・体力の向上

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を45.0%以上にする。

➤ 7月 42.9%、12月 45.3% 達成

- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。

3年生	R2	R3	R4	2年生	R3	R4	1年生	R4
国語	0.84	0.88	0.89	国語	0.95	0.91	国語	0.86
数学	0.93	1.04	0.89	数学	0.88	0.80	数学	0.90

- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を75%以上にする。

➤ 48.2%

- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。

➤ 7月 56.0%、12月 54.1% 達成

学びを支える教育環境の充実

全市共通目標

- 学習者用端末を活用した学習を、教科の授業実施日には毎日実施する。

➤ 12月まで毎月100% 達成

- ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

➤ 原則毎週水曜日に設定した。 達成

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を30%以上にする。

➤ 12月時点 38.71% 達成

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の学校運営全体を通じての成果

- いじめ・虐待等についての研修の実施により、教職員の理解、迅速な対応へとつながった。
- 社会通念上、合理的でないというルールをその都度見直すことができた。
- すべての教科や学級活動において、言語能力育成を意識した授業実践や、教え合い、学び合いの文化を醸成することができた。

- 校区小学校との連携では、限定的ではあるが、対面で実施することもできた。
- 授業以外の校務でも ICT 活用場面が多く見られるようになった。

項目や取組の重点の置き方について

- 学力向上の取組を「言語能力の向上」へシフトし 2 年目となる。教員は前向きに取り組んでおり、生徒も一定の成果は示しているが、生徒アンケートからは、伝える力が弱いことが見て取れる。言葉に向き合う姿勢を授業のみならず、日々の教育活動の中で育成する必要がある。
- 子どもたちの最善の利益を求めることと同時に、子どもたちの「生きる力」を育み伸ばしていくため、教職員がそれぞれの長所を生かしながらも、「毅然と対応する」「丁寧に対応する」「子ども自身に達成感を与える」「我慢して見守る」必要がある。

目標を達成できなかった項目に見られた課題について

- 不登校生徒等に対する適切な支援について環境整備を行ったが、常時の開設および運営のために、対応に当たる適切な人員の確保が急務である。
- 英語力の向上が重要視されていることに対し、小学校との連携を図るなど、その対策に重点を置く。また、授業のみならず、教育活動のすべての場面において、言語能力の向上を見据えた子ども達への関わり方を、全教員が意識して継続する必要がある。
- 子どもに寄り添う姿勢を大切に、生活指導には全教職員が関わり、授業を進められる環境をつくり、科学的根拠を用いて授業や体育的行事での取組みの充実を図る。
- ICT 機器の活用については、用意された環境の中で、現行の活用方法にとどまらず、教職員自らが学び続ける姿勢を持つ必要がある。また、生徒には情報モラルの向上が急務であり、合わせて情報リテラシーの向上を図る必要がある。

成果を伸ばし課題を改善するために、次年度に向けて取り組むこと

- 言語能力の向上にかかる取組、Hyper-QU の取組は継続し、教職員への研修を実施するとともに、それらの結果を教職員が意識し、結果から学び、教育実践に生かすようにする。
- コロナ禍の制限も緩和されていく中、歯磨き指導や保護者への受診勧告など、健康教育の取り組みを進めていく必要がある。
- 生徒たちの体験活動を支えるうえで、企業・団体の力を学校教育に取り込み、総合的な学習の時間をはじめとした各教科での横断的実践を行う。
- 大人が子どもたちに対し、やって見せ、間違っても失敗しても構わないから、最後まで子どもたちにさせてみて、我慢して見守る体制を徹底する。
- 学習については、長期休業期間中の補習体制を強化し、部活動以外での子どもの学びの場所を確保する。

大阪市立難波中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
安全・安心な教育の推進 全市共通目標 <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を95%以上にする。 ➢ 7月 86.4%、12月 78.0% ● 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ➢ 令和3年度 12.56%、令和4年度 11.3% 達成 ● 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 ➢ 令和3年度 2.41%、令和4年度 13.6% 達成 	B

***指標、 ***結果

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容 1-1【1 安全・安心な教育環境の実現】 <ul style="list-style-type: none"> ● いじめ対策基本方針を周知徹底し、アンテナの感度を高め、未然防止を徹底する。 <div> ① 「いじめについて考える日」の取組や「いじめアンケート」の実施により、いじめの未然防止、早期発見を徹底する。 ② 対応フローチャートを周知徹底し組織的に対応する。 ③ スクールロイヤー研修を実施する。 </div> <div> ① 5月に生徒会主導で動画を作成した。アンケートは5・7・9・11・2月に実施。スクールライフノート、校内スクリーニング会議を実施して早期発見、早期対応を行った。 達成 ② 年度初めに周知。いじめ対策委員会での組織的対応を常時実施。 達成 ③ 12/12(月)に教員向けスクールロイヤー研修を実施した。 達成 </div>	B
取組内容 1-2【1 安全・安心な教育環境の実現】 <ul style="list-style-type: none"> ● 不登校者数の改善に向け、適応しやすい環境を作るとともに、新たな不登校生を未然に防ぐ。 <div> ① 適応指導教室の整備により、個別対応を行う。 ② 「Hyper-QU」を全学級で実施し、教職員への研修を行う。 ③ 新たな不登校生の割合を昨年度以下にする。 </div> <div> ① さざなみルームとひだまりルームを開設し、個別の対応を行った。 達成 ② 「Hyper-QU」を全学級で実施。2回の研修へ延べ8人の教員を派遣し、彼らを中心に校内研修を行った。 達成 ③ 令和3年度 1.93%、令和4年度 3.70% </div>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 1-3【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対応フローチャートを周知徹底し組織的に対応する。 ● 「学校安心ルール」による規範意識の醸成を図る。 <p>① 関係諸機関等と連携を図り、薬物乱用・非行防止教室を実施する。</p> <p>② 校内調査における「学校のまわり・規則を守っていますか」に「そう思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。</p> <p>① 非行防止教室を12月に実施。薬物乱用防止教室を3月に実施予定。</p> <p>② 7月 64.7%、12月 68.6% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-4【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スクリーニング会議や端末の機能を積極的に活用する。 ● 虐待等の事案を関係諸機関と連携し対応する。 <p>① 校内調査における「友達や先生に相談しやすい雰囲気がありますか」に「そう思う」と回答する生徒の割合を44%以上にする。</p> <p>① 7月 53.8%、12月 50.3% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-5【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 区役所、消防署、地域と連携した防災・減災教育の充実を図る。 <p>① 区役所、消防署、地域と連携し、防災教育を実施する。</p> <p>② 消防署と連携し、校内において避難訓練を実施する。</p> <p>① 11月に実施。 達成</p> <p>② 5/6(金)に火災・津波を想定した訓練を実施、11月に地域防災訓練を実施。 達成</p>	B
<p>取組内容 1-6【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォンやSNS利用についての研修会を実施する。 ● 関係諸機関等と連携を図り、情報モラルに関する授業を実施する。 <p>① 校内調査「ネット上のルールを守り、パソコンやスマートフォンの正しい使い方ができていますか」に「そう思う」と回答する生徒の割合を向上させる。</p> <p>① 7月 66.8%、12月 61.6%。 4月に教職員向け研修会、12月にNTTドコモの携帯教室、2月にLINE 未来財団の携帯教室を実施した。</p>	B
<p>取組内容 1-7【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 道徳担当教師による、道徳にかかる校内研修・情報伝達を進める。 <p>① 校内調査「生命の大切さや人権について学んでいますか」に肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>① 7月 97.3%、12月 96.2%。 達成 人権教育推進委員会、道徳担当、学年が連携し、スクールアドバイザーによる指導助言により、教員の授業力を高めている。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 1-8【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体験や職業適性検査等の取り組みを通したキャリア教育を進める。 <p>① 校内調査「自分の将来に夢や希望をもっていますか」に肯定的に回答する生徒の割合を 65% 以上にする。</p> <p>① 7 月 66.8%、12 月 77.4% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-9【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講師の招聘や体験学習を取り入れ、系統立てた人権総合学習カリキュラムを構築し推進する。 <p>① 校内調査「自分には良いところや得意なことがあると思いますか」に肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。</p> <p>① 7 月 83.2%、12 月 81.8% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-10【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援教育サポーターと連携し、ICT 教材の活用と合わせ、障がいのある生徒の自立を支援する。また、外部連携や進路指導について研修を深める。 <p>① 校内調査「人権問題について正しく理解するとともに、様々な立場にある生徒の理解に努めていますか。」に肯定的に回答する教職員の割合を 90%以上にする。</p> <p>① 7 月 100.0%、12 月 100.0%。 達成 人権教育推進委員会としての役割は意義を持って進められている。</p>	B
<p>取組内容 1-11【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多文化共生教育を推進し、渡日して間もない生徒への就学・学習支援・仲間づくり・進路選択の支援を行う。 <p>① 日本語指導協力者との連携、および ICT を活用した日本語指導支援を行う。 ② 外部講師による学習を実施する。 ③ 教職員人権教育研修を体系的に実施する。</p> <p>① JSL との連携、ポケトークや Google 翻訳など、ICT 機器を用いた日本語の学習支援を進めている。 達成 ② 外部講師を招く取り組みも計画的に実施することができた。 達成 ③ 年 8 回、教職員への研修を実施した。 達成</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ● 現時点での進捗状況は概ね B である。 ● 取組内容 1-2 について、適応指導教室を開設し、不登校傾向、教室に入りづらい生徒の居場所を確立し、教職員が入れ替わりながらその対応、見守りにあたっているが、まだまだ人手が足りない状況である。 ● 取組内容 1-3 について、社会通念上合理的でないというルールはその都度見直している。しかし、学校が教育目的を達成するために必要なルールにおいて、少なからず違反も見られる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度(今後)への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ● 取組内容 1-2 について、生徒の不安材料の分析を実施し、対応に当たる必要がある。 ● 取組内容 1-3 について、継続的にフローチャートの確認を行い、ポジティブな行動の支援と、間違った行動に対しては組織だって毅然と対応する。 ● 取組内容 1-8 について、進路担当と連携し、発達に応じたキャリア教育を実践予定である。 ● 取組内容 1-9 について、昨年度と比べ、自己肯定感は向上しているが、まだまだ低い。要因やきっかけも含め、具体的な取り組みとして汎用性を出せる工夫を検討する。

大阪市立難波中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																											
<div>未来を切り拓く学力・体力の向上</div> <div>全市共通目標</div> <ul style="list-style-type: none">● 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 45.0%以上にする。<div>➤ 7 月 42.9%、12 月 45.3% 達成</div>● 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。<table><tr><td>3 年生</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>2 年生</td><td>R3</td><td>R4</td><td>1 年生</td><td>R4</td></tr><tr><td>国語</td><td>0.84</td><td>0.88</td><td>0.89</td><td>国語</td><td>0.95</td><td>0.91</td><td>国語</td><td>0.86</td></tr><tr><td>数学</td><td>0.93</td><td>1.04</td><td>0.89</td><td>数学</td><td>0.88</td><td>0.80</td><td>数学</td><td>0.90</td></tr></table>● 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能)を 75%以上にする。<div>➤ 48.2%</div>● 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。<div>➤ 7 月 56.0%、12 月 54.1% 達成</div>	3 年生	R2	R3	R4	2 年生	R3	R4	1 年生	R4	国語	0.84	0.88	0.89	国語	0.95	0.91	国語	0.86	数学	0.93	1.04	0.89	数学	0.88	0.80	数学	0.90	<div>B</div>
3 年生	R2	R3	R4	2 年生	R3	R4	1 年生	R4																				
国語	0.84	0.88	0.89	国語	0.95	0.91	国語	0.86																				
数学	0.93	1.04	0.89	数学	0.88	0.80	数学	0.90																				

***指標、 ***結果

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況																
<div>取組内容 2-1【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div><ul style="list-style-type: none">● 全学年でリーディングスキルテストを実施し、全教職員がリーディングスキル向上を意識的に取り入れた実践を行う。● 自分の意見や考えを発表する「学びの場」を全教科で設け、相互参観を実施する。● 言語活動を重視し、協同学習を通して教えあう学習集団の育成を図る。</div> <div><p>① 年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対し「そう思う」と回答する生徒の割合を 45%以上にする。</p><p>② チャレンジテストにおける無回答率を昨年度より 1 ポイント減少させる。</p></div> <div><p>① 7 月 42.9%、12 月 45.3% 達成</p><p>② 全国学力・学習状況調査においての無回答率は昨年度より減少したが、チャレンジテストでは増加している。</p><table><tr><td></td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3 年生</td><td>中止</td><td>7.4%</td><td>10.2%</td></tr><tr><td>2 年生</td><td>---</td><td>6.7%</td><td>12.7%</td></tr><tr><td>1 年生</td><td>---</td><td>---</td><td>10.6%</td></tr></table></div>		R2	R3	R4	3 年生	中止	7.4%	10.2%	2 年生	---	6.7%	12.7%	1 年生	---	---	10.6%	C
	R2	R3	R4														
3 年生	中止	7.4%	10.2%														
2 年生	---	6.7%	12.7%														
1 年生	---	---	10.6%														
<div>取組内容 2-2【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div><ul style="list-style-type: none">● 読解力向上の視点を通してグループワークやプレゼンテーションなどの言語活動を実施し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。</div> <div><p>① 校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」において、肯定的な回答を 75%以上にする。</p></div> <div><p>① 7 月 87.0%、12 月 92.5% 達成</p></div>	B																
<div>取組内容 2-3【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div><ul style="list-style-type: none">● 単元テストや学習者用端末等を活用し、生徒が自ら学ぼうとする意欲を高める。</div> <div><p>① 単元テストの再テストを実施し、実施後の平均正答率を実施前より 5 ポイント向上させる。</p></div> <div><p>① 10 月実施前 45.3%、実施後 52.4%、12 月実施前 53.4%、実施後 60.8% 達成</p></div>	A																
<div>取組内容 2-4【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div><ul style="list-style-type: none">● 習熟度別授業、複数教員による指導、補充学習を実施し、また、デジタルドリルの活用により、個別最適化の学びを推進する。</div> <div><p>① 授業アンケートにおける「授業で分からないときやもっと知りたいとき、そのことについて教えてもらえていますか」の質問において、肯定的な回答の割合を 75%以上にする。</p></div> <div><p>① 7 月 94.4%、12 月 89.1% 達成</p></div>	B																

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 2-5【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 単元テスト等でふりかえり、復習する機会を設け、知識・技能の定着を図る。 ● 現象や実験結果について話し合い、また端末を活用しながら、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 <p>① 授業アンケート「授業の内容が分かるようになっていませんか」について、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。</p> <p>② 校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。</p> <p>③ 校内調査「パソコンなどの ICT 機器を使った授業は楽しいですか」について、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。</p> <p>① 7 月 92.5%、12 月 88.7% 達成</p> <p>② 7 月 87.0%、12 月 92.5% 達成</p> <p>③ 7 月 91.8%、12 月 92.5% 達成</p>	B
<p>取組内容 2-6【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全学年で実技テストを年に 3 回以上行い、音楽表現の豊かさを向上させる。 <p>① 実技テスト後の批評文に、自身の意見を適切に表現できる生徒の割合を向上させる。</p> <p>① 7 月 57.3%、12 月 65.0% 達成</p>	B
<p>取組内容 2-7【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 単元テストを実施し、知識・技能の定着を図る。 ● 作品鑑賞の授業を取り入れ、表現力を向上させる。 <p>① 全生徒の過半数が単元テストで 7 割以上とれるようにする。</p> <p>② 年間 3 回以上、鑑賞の授業を実施する。</p> <p>① 1 年生 60%、2 年生 50%、3 年生 70%の生徒が 7 割以上とれるようになった。 達成</p> <p>② 全学年で 6 回、鑑賞の授業を実施した。 達成</p>	B
<p>取組内容 2-8【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年間の授業の 2/3 以上で実習を伴う授業を行う。 <p>① 校内調査「授業で分からないときやもっと知りたいとき、そのことについて教えてもらっていますか」の質問において、肯定的な回答の割合を 75%以上にする。</p> <p>① 7 月 89.7%、12 月 93.7% 達成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 2-9【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校保健計画に基づき、健康教育の推進を図る。 <p>① 週 1 回の安全点検を実施する。</p> <p>② 外部講師等による特別授業を年 10 回以上実施する。</p> <p>① 毎週校内の安全点検を実施。その都度報告、対応にあたっている。 達成</p> <p>② 5 月以降、給食について、栄養バランス、食事マナー、歯磨き、正しい姿勢についての特別授業を実施。12 月・1 月に、外部講師による 1・3 年生へ性教育の講話を実施した。 達成</p>	B
<p>取組内容 2-10【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健康な生活と疾病や感染症の予防について周知し、生徒・家庭の健康への意識向上を図る。 ● 学校医等や保健福祉センターと連携し、必要な情報を共有し、感染症の拡大を防止する。 <p>① 毎月、保健だよりを配布する。</p> <p>② 毎月の委員会活動を通じて情報発信を行う。</p> <p>③ 健康に関する特別授業を実施する。</p> <p>④ 校内調査「自身の健康について意識し、健康管理や感染対策ができていますか」に「そう思う」と回答する生徒の割合を向上させる。</p> <p>① 日々の様子や感染症の流行状況などをふまえ、時期にあった活情報提供を実施した。 達成</p> <p>② 掲示物の作成、標語作りなど、生徒にどのように伝えていくか工夫して実施した。 達成</p> <p>③ 給食について・栄養バランス・食事マナー・歯磨き・正しい姿勢について実施した。 達成</p> <p>④ 7 月 51.6%、12 月 47.8%</p>	B
<p>取組内容 2-11【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健康な食生活やアレルギー対応について周知し、生徒・家庭の健康や食への意識向上を図る。 ● 食に関する指導の全体計画、年間指導計画に基づき、食育の推進を目指す。 <p>① 残食率を減らす。</p> <p>② 食に関する特別授業を実施する。</p> <p>③ 校内調査における「子どもは毎日朝食をとっていますか」にそう思うと回答する保護者の割合を向上させる。</p> <p>① 7 月 8.1%、10 月 7.3%、1 月 9.8%</p> <p>② 食育講座や学年集会にて、栄養バランスや食事マナーについての特別授業を実施した。 達成</p> <p>③ 7 月 73.3%、12 月 74.5% 達成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容 2-12【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ● 授業や体育的行事、部活動を通じ、自己の最善を尽くして運動する態度を養い、体力の向上と心身の調和的発達を図る。 ● 生涯にわたって運動に親しむ習慣を確立させ、健康の保持増進と体力の向上を目指す。 ① 新体力テストにおける体力合計点を、昨年度よりも 1 ポイント向上させる。 <p>①【男子】令和 3 年度 35.79→令和 4 年度 35.62 【女子】令和 3 年度 47.93→令和 4 年度 42.25</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ● 現時点での進捗状況は概ね B である。 ● 取組内容 2-1 について、すべての教科や学級活動において、言語能力育成を意識した授業を実施している。 ● 取組内容 2-3 について、7.1%の平均正答率の向上が見られた。単元テストのあとは再テストを実施し、デジタルドリル「navima」やプリント学習などにより自主学習ができる環境を整備しているが、テスト前だけ学習している生徒が多い。 ● 取組内容 2-4 について、再テストや放課後補充学習を実施し、教え合い、学び合いの文化を醸成している。 ● 取組内容 2-6 について、2・3 年生は比較的書くことができています。1 年生は批評文だけでなく、授業の振り返り時にも言葉で表現することができない生徒が多い。 ● 取組内容 2-10 について、年間を通じて、時期にあった活情報を提供し、健康に関する特別授業後には、ほけんだよりで振り返りをさせることで定着をはかった。 ● 取組内容 2-11 について、毎月の配布物にひと工夫を加え、盛り付け見本を工夫し、残食なしの献立もみられるようになった。 ● 取組内容 2-12 について、男子は▲0.17、女子は▲5.68と下がってしまった。
次年度(今後)への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ● 取組内容 2-1 について、英語力を伸ばすことが重要視されていることに対して、その対策に重点を置く。また、言語活動を中心とした帯活動など、継続した取組が必要である。テスト勉強の指導方法を工夫し、テストに対する意識を高める。 ● 取組内容 2-3 について、継続して学習に取り組むよう、探求を取り入れ、学びへの意識、姿勢を改める。 ● 取組内容 2-6 について、声掛けの工夫や、こういった単語を使うべきか細かな工夫が必要である。 ● 取組内容 2-11 について、健康や食への意識向上を更に図るよう、生徒・家庭にあらゆる機会を利用して行う。 ● 取組内容 2-12 について、授業での運動量の確保と体育的行事の取組みの充実、部活動では科学的根拠を用いた量より質への転換を図る。

大阪市立難波中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
学びを支える教育環境の充実 全市共通目標 <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者用端末を活用した学習を、教科の授業実施日には毎日実施する。 ➢ 12月まで毎月100% 達成 ● ゆとりの日を週に1回設定・実施する。 ➢ 原則毎週水曜日に設定した。 達成 ● 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を30%以上にする。 ➢ 12月時点38.71% 達成 	B

*** ……指標、*** ……結果

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容 3-1【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● すべての生徒・教職員がICTを活用できるように環境を整える。また、各種調査のデータを分析・検証し、学校が抱える課題の解決を図る。 <div> ① デジタルドリルやClassroomなど、全教科で端末を活用した授業を継続して展開する。 ② 校内の各会議の場において、各種調査の分析・検証を実施する。 </div> <div> ① 6～12月の端末活用率: 100% 達成 ② 教職員の業務においてもICTを活用し、アンケート調査やその分析・検証に活用するようになっている。 達成 </div>	A
取組内容 3-2【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 教育情報利用パソコンの使用環境を充実させ、教科指導等での端末活用を推進する。 <div> ① ペンタブレットを導入し、オンライン学習でも教室と同等の授業が受けられる環境を作る。 </div> <div> ① 希望した教員への試験的導入に留まっている。 </div>	C
取組内容 3-3【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 <ul style="list-style-type: none"> ● 健康観察・感染症対策ツール「LEBER」を導入し、担当教員の負担を減らし、学校経営の効率化を図る。 <div> ① ツールの導入前と比較し、健康観察および報告書作成にかかっていた時間を減らす。 </div> <div> ① 朝の電話対応など、担当者の負担が以前の3割程度になっている。 達成 </div>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 3-4【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年間の学校行事の見直しや精選を行い、効率的に業務にあたるようにする。 ● ICT 機器や部活動指導員、支援スタッフ等を活用し、教職員がゆとりをもって業務にあたることのできるようにする。 <p>① 長時間勤務該当者を昨年度より減らし、月別の平均時間外勤務を市平均以下にする。</p> <p>② 閉庁日やゆとりの日を設定する。</p> <p>① 月別の平均時間外勤務時間は市平均以下(約 2 時間弱)だが、昨年度に比べ 2 時間の増である。</p> <p>② 長期休業期間中に 6 日間の閉庁日を設定。原則毎週水曜日にゆとりの日を設定。 達成</p>	B
<p>取組内容 3-5【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様性や発達段階に応じた子どもの読書環境の整備・充実を図り、蔵書数を 9,100 冊以上にする。 ● 毎月、子どもの読書に関する普及・啓発を行い、各教科活動で読書の機会を増やす。 <p>① 校内調査「読書することは好きですか」に「そう思う」と答える生徒の割合を向上させる。</p> <p>① 7 月 32.6%、12 月 37.7% 達成</p> <p>蔵書数を 9187 冊にした。</p>	A
<p>取組内容 3-6【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校協議会や PTA 実行委員会など地域との連携や関わりでの情報発信を継続して行う。 <p>① 地域や学校協議会、実行委員会などで積極的に情報発信を行う。</p> <p>② ホームページ閲覧数を昨年度より増加させる。</p> <p>③ 校内調査における「学校の様子や取組みについて、ホームページ等によく知ることができていますか」に「そう思う」と回答する保護者の割合を 47%以上にする。</p> <p>① ホームページなども利用して学校の情報発信を行った。 達成</p> <p>② 令和 3 年度(4～1 月): 39256 件、令和 4 年度(4～1 月): 32312 件</p> <p>③ 7 月 41.2%、12 月 47.3% 達成</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ● 現時点での進捗状況は概ね B である。 ● 取組内容 3-1 について、アンケートなど、授業以外の校務でも ICT 活用場面が多く見られるようになっている。 ● 取組内容 3-2 について、搭載メモリ容量による限界から、ペンタブレットの活用普及には現段階では厳しい。 ● 取組内容 3-5 について、公共図書館の団体貸出を利用した外国籍生徒に向けた図書の提供、読み聞かせやアニメーションなど発達段階に応じた読書活動を実施。保健室への蔵書配置、1 階読書スペースの蔵書整理、毎月の図書館だよりの発行、読書週間での本にまつわるイベントを実施した。
次年度(今後)への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ● 取組内容 3-2 について、今後は有効活用できる範囲で活用を進める。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none">● 取組内容 3-3 について、来年度の全市的な連絡ツールの導入にあたり、配布物等をツールを活用する形態に変え、教職員への研修、保護者への周知徹底を図る。● 取組内容 3-4 について、時間外勤務縮小の意識を徹底し、効率化できる仕事については、ツールの導入や工夫により減らす。● 取組内容 3-6 について、学校協議会や PTA、ホームページによる情報発信だけでなく、地域学校共同活動で、子ども・大人・地域を巻き込んだ学校運営の活性化を図る。